■(入江)伊豆長八　　左官職人。空前絶後の鏝絵師。幕末に独自の"鏝絵"を開発して名声，維新後も様々な分野で傑作。
いずのちょうはち
・・・・・・1815＝　伊豆国松崎村明地で，貧しい農家入江兵助・てこの次男に生まれる。

兄が既に夭折していたため，事実上の長男で，姉一人，のち，妹・弟(夭折)が誕生。
水野忠成老中1818＝ 3歳：
伊豆の西海岸では最も大きな町で，冬の西風が強く，屋根や壁を養生する左官職人が輩出してきた土地で，幼時から元気で利発に育ち，
蝦夷地直轄終1821＝ 6歳：菩提寺の浄感寺住職正観上人の塾に入り，寺の雑役をすることで月謝を免除され，薫陶を受ける。

ｼｰﾎﾞﾙﾄ鳴滝塾1824＝ 9歳：

・・・・・・1826＝11歳：塾を辞め，_松崎の左官頭領関仁助の弟子となる。

富籤流行・・1830＝15歳：_駿府で仕事することになった親方仁助に同行，都市の文化に魅了され，美術に関心を抱く。

_暇さえあれば絵を描き，手先が器用で万能，非凡な腕前を見せるが，同僚から妬まれ，
天保大飢饉始1833＝18歳：_江戸に出て，飢饉で不況のなか，左官技術で食いつなぎ，
高島砲術・・1834＝19歳：_日本橋近くの左官の棟梁波江野亀次郎配下の職人になり，可愛がられるも，絵師になりたくて，
滑稽+人情本 1835＝20歳：_親方の下を去り，川越に行き，谷文晁の高弟喜多武清に入門。

大塩平八郎乱1837＝22歳：
適塾ｵｰﾌﾟﾝ・ 1838＝23歳：_父死去の報で，帰郷。以後，江戸で自暴自棄の生活を送るなか，新内節に熱中して修得，

勧進帳初演・1840＝25歳：結婚。_遊び仲間に誘われ，新内語りとして旅芸人するうち，三島で，かっての先輩に諭され，
天保改革始・1841＝26歳："柳刃"鎮を考案。*波江野の下に戻って，左官職人として再出発，日本橋茅場町の薬師堂再建工事で装飾を任され，漆喰によるレリーフに色彩を施した全く新しい芸術"鏝絵"で「龍」を制作，一躍名が知られる。
天保改革弾圧1842＝27歳：

阿部正弘首座1845＝30歳：_浄感寺本堂再建の話を聞くや，松崎へ帰り，画家として採用され，
孝明天皇・・1846＝31歳：_壮大な空間を意識して，最大の作品で水墨画としても貴重な天井絵「雲龍」と襖絵「水墨龍図」を制作，現存する最古鏝絵で欄間の「飛天の図」を制作して，錦を飾る。この間，住職正観上人が死去，亡き恩師「正観上人画像」を絵画にして，浄感寺に寄進後，江戸に戻り，以後，塑像などでも，実在の人物描写を多く制作。
・・・・・・1847＝32歳：浄感寺本堂本尊遷仏供養。最初の妻とは理由は分からないが離別しており，*新内節以降も，遊び場に出入りしていたからか，江戸深川の妓楼で播磨屋源治郎の娘たきの婿養子となって再婚，十代目播磨屋金兵衛を名乗って独立。
尊徳報徳論・1851＝36歳：
万次郎帰国・1852＝37歳：郷里で姉が死去。
ペリー来航・1853＝38歳：母も死去。江戸目黒の祐天寺に参禅し，同郷の住職祐興から講義を受け，"天祐"の号を受ける。
_この時までに，身内を次々失い，
松下村塾・・1856＝41歳：祐天寺の修復工事にも参加。_成田山新勝寺からの依頼で，本尊の修復に当ると，塗額形式の鏝絵の処女作「臼に鶏」を奉納，自らの心の支えとすべく，申し出て「漆喰不動王像」を修復。
蕃書調所・・1857＝42歳：前年死去した絵の師匠武清の追善供養にと，「天海僧正像」を制作して，川越喜多院に奉納。
五ヶ国条約・1858＝43歳：江戸大火で播磨屋も全焼。新築再興した直後に，義父がコレラで急逝，その遺志を汲んで，播磨屋の菩提寺たる江戸浅草の正定寺に鎮守堂を建立して寄進，
桜田門外変・1860＝45歳：「白象像」ほか各面に鏝絵を掲げ，普賢菩薩像も制作して奉納。
生麦事件・・1862＝47歳：鏝絵「秋江帰帆」。
8月18日政変 1863＝48歳：塑像「白狐」「上総屋万次郎像」。_江戸の橋戸稲荷神社「親子狐図」(明治二年か?)は一層立体的な鏝絵になり，

薩摩藩士密航1865＝50歳：「天鈿女尊像」。_成田山新勝寺の不動明王が二童子を連れて霊夢に現れて以降，制作を願うも，機会無く，
薩長同盟・・1866＝51歳：鏝絵の主題には富士山が最も多いが，その最初の作品「三保ノ松原より富士眺望」を制作，

明治維新・・1868＝53歳：
戊辰戦争終・1869＝54歳：*隅田川新大橋たもとで弟子の経営する大茶屋八橋の大改築に，左官の仕事を買って出，大座敷に漆喰絵「菖蒲」「蓮池」「千羽鶴」を施し，普賢菩薩像も制作，新名物となって，東京中に話題を提供。
初の日刊新聞1870＝55歳：正定寺鎮守堂に漆喰「大黒天像」を寄付。深川大火で自宅全焼し，妻たきが死去。_平民に姓が許され，上田助右衛門を名乗るが，伊豆長八で通す。
廃藩置県・・1871＝56歳：養子清太郎の子が，以降3年，続けて死去，
学問のすすめ1872＝57歳：再々婚。_東京品川区寄木神社土蔵造りの本殿扉絵では特異な表現に至る。
明治6年政変 1873＝58歳：「達磨大師像」。
初の民間工場1875＝60歳：沼津戸田の松城邸(擬洋風建築擬窓)，松崎の旧岩科村役場壁画(鏝絵)。_養子清太郎が芸者を殺傷して，新聞記事になるなど，不幸が続き，上田姓から入江姓に戻すと，時間をかけての「神農像」以後，堰を切ったように活動し始め，浅草の人形定小屋で鏝絵が展示され，
三つの内乱・1876＝61歳：_自ら「漆喰絵の肖像館」という見世物を開き，鏝絵「森家の家族」，塑像として，少年時代の左官の師匠「関仁助像」のほか，「依田直吉像」「神功皇后像」「応神天皇と武内宿禰像」，絵画「聖徳太子画像」などを展示，この前後，郷里に招かれ，多くの作品を制作，鏝絵「女人図」では写真のような写実性を発揮。
西南戦争・・1877＝62歳：鏝絵「官女図」。塑像「火鉢」「水瓶」。_第一回内国勧業博覧会に最大の鏝絵「富嶽」を出品，花紋賞牌となるも，芸術と認められないことに反撥，以後，出品せず。山岡鉄舟の知遇を得，龍澤寺参禅を勧められる。
大久保暗殺・1878＝63歳：鏝絵「水月観音図」。この頃，技法サンプルのような作品「漣の屏風」。_三島の龍澤寺の星定和尚に参禅，"天祐居士"の号を授かり，ようやく不動明王信仰実現の機会を得て，身を清めて集中的に，最大の塑像「不動明王及び二童子像」を制作，あわせて塑像「恵比寿像」「大黒天像」も制作，近くの歓喜寺に塑像の傑作「延命地蔵菩薩像」など，廃仏毀釈時代に多くの仏像を制作。また，龍澤寺隠寮壁画にも壮大な空間意識が現れ，
沖縄県編入・1879＝64歳：_続いて鏝絵「群鳥図」，塑像「星定和尚像」を制作，成田山新勝寺と同じ画題の「臼に鶏」を奉納後，
・・・・・・1880＝65歳：伊豆松崎岩科に濡在。春城院の諸仏，「恵比寿像」「大黒天像」。御宿のしんしま壁画。_岩科学校二階客室の四周に描かれた群れ飛ぶ鶴の描写に発展，擬洋風建築の中に伝統的技法の役割を大きく発揮して，
明治14年政変1881＝66歳：深川八名川に住む。
新体詩抄・・1882＝67歳：松崎春城院に大般若経五巻の金円を送る。
岩倉具視没・1883＝68歳：絵画「十六善神画像」。
この間，山岡鉄舟を通じて知った清水次郎長から頼まれて，「山岡鉄舟座像」を制作，写真をもとに，迫真的な鏝絵「清水次郎長像」も制作，
内閣発足・・1885＝70歳：東京茅場町の薬師堂が焼失，再建に奔走。塑像「観音像」制作。
帝国大学始・1886＝71歳：山岡鉄舟の病気平癒を願い，石造「地蔵菩薩像」を制作。
国民之友始・1887＝72歳：鏝絵「寒牡丹」。
初の対等条約1888＝73歳：山岡鉄舟が死去。塑像「宝州(禅鼎)和尚和尚像」。絵画「素菱鳴尊図」。
帝国憲法発布1889＝74歳：松崎の松本邸壁画「瀟湘八景」。東京深川八名川で，自作位牌に"仰誉天祐乾道禅士"と落款し，_没した。

村山道宣「土の絵師・伊豆長八の世界」，日比野秀男監修「伊豆の長八」，平凡社百科事典，「目でみる日本人物百科」，